

「地球汚染」を解読する ● 目次

カラーページ	
マクロの「地球観」	2
画像工学の情報力	4
自然のリズム	8
急がれる海洋アプローチ	10
人間の営為と侵犯	12
自然による変動	14
地球のパワー	16

プロローグ 地球は危機か？……………25

「地球汚染」は突然ではない
人工衛星からの新・地球観
「危機」の主語は何か？
踊る情報、乱れる不安
「地球汚染」の本当の姿のために

第一章 「地球汚染」と人工衛星

- 1 人工衛星の発達……………36
 - 人工衛星の登場
 - スプートニク・ショック
 - 米ソ宇宙開発競争
 - 気象衛星から偵察衛星へ
 - 衛星の軌道と事情①
 - 衛星の軌道と事情②
- 2 偵察衛星の技術……………51
 - 一九六二年・キューバ危機の意義
 - 国際紛争の裏の偵察衛星
 - 偵察衛星の能力
 - 武器としての衛星情報
- 3 気象衛星の役割……………61
 - アメリカの気象衛星
 - 山師、宇宙へ——ランドサット①
 - 大陸移動説——ランドサット②
 - ランドサットの本当の目的
 - ノアの情報能力
 - ニンバスの情報能力
 - 地球生命圏を監視する

第二章 「地球汚染」の実相

- 1 変動する大気……………88
 - 地球大気の神秘
 - 大気圏の構造
 - オゾン層は生物を守るフィルター
 - 許容範囲を超えた人間活動
 - 人口増大が招く森林破壊
- 2 世界と日本の「汚染研究」……………104
 - ストックホルム会議の警告
 - 高まる異常気象への関心
 - 産業革命と環境破壊
 - 公害問題は地球汚染の種
 - 世界規模で進む海洋汚染

環境問題へのアプローチ①——アメリカ、ヨーロッパの対応	
環境問題へのアプローチ②——日本の場合	
研究の進め方——遅れた日本の現状	
3 「地球汚染」とその裏側……………	118

環境規制と産業の盛衰
 テュボン社の思惑
 北極のデータはなぜ公表されないか
 温暖化問題の不確定部分
 森林破壊の経済的要因
 砂漠化は人口増加の問題
 「地球論議」で落ちているポイント
 解明されるべき「海洋の神秘」

第三章 「地球汚染」と食糧戦略

1 気象で揺れる食糧……………	140
気象と農業と人間①	
気象と農業と人間②	
かつて気象は国家機密だった	
気象は戦略となる	
見えてきた異常気象のメカニズム	
国際的な取り組みの時代	

2 「食糧と気象」の戦略……………	154
-------------------	-----

キーワード・食糧の意味
 食糧供給の力が国力
 乾燥化が進む——大農業国・アメリカの事情①
 人工衛星で見る穀物収穫量
 米ソ穀物供給協定
 カーターの失敗——大農業国・アメリカの事情②
 コメ自由化要求——大農業国・アメリカの事情③
 米・中・ソのバランス

3 提言・日本の食糧戦略……………	173
-------------------	-----

コメ切り捨ては是か？
 ボーランドの失敗に学ぶ
 フォークランド紛争の裏の米ソ戦略
 日本のシナリオを考える

第四章 「地球汚染」と思惑

1 SDIの野望……………	182
サミットのミステリー	
砲艦外交と植民地政策——国家利益の追求①	
二つの世界大戦——国家利益の追求②	
二極構造と極地戦争——国家利益の追求③	

2 主導権争い……………195

国際会議の裏舞台
それぞれの思惑、足並みの乱れ
NIESS諸国の反発
東側陣営にとつての環境問題
国際的な法規制はできるか？
ほの見える国家エゴ
「公害先進国」日本の役割

SDI構想——新・国家利益の追求①
ヨーロッパ諸国と日本の違い
「机上最大の戦略」は一兆ドル
アメリカの目論見
SDIから地球環境問題へ——新・国家利益の追求②

第五章 人類は考える

1 地球史の中の人類……………208

地球はいつも変化している
人類の登場
例外のない自然の法則

2 これからの生活哲学……………215

宇宙空間にまで廃棄物

3 地球環境の処方箋……………226

地球汚染は廃棄物の問題
廃棄を考えた生産技術へ
自然に戻す・リサイクル——対策①
システムを再考する——対策②
廃棄物の減らし方
消費者の「生活思想」を変える

4 地球環境とエネルギー……………240

ノーベルの悲劇
「安全一〇〇パーセント」とは何か？
原子力エネルギーと地球環境を区分ける
感情論合戦からチャレンジへ
期待と時間と費用のかかる「核融合」
自然の力と人間の英知

環境を浄化する技術
フロンは閉鎖系の中で使う——オゾン層破壊
地球本来の作用を見直す——温暖化
計画的な伐採と植林を実施する——森林破壊
気象変動を抑えていく——砂漠化
可能性は、まだまだ出てくる